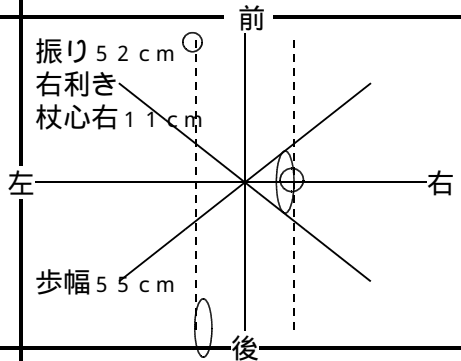


児童生徒氏名〔 記入例 〕 生年月日〔平成, 昭和 年 月 日〕

幼稚部 小, 中, 長, 小学部 1, 2, 3, 4, 5, 6, 中学部 1, 2, 3, 普通科 1, 2, 3, 専攻科 1, 2, 3,

調査項目	担当者所見(歩行動作で確認)
知識	左右と方角 概ね理解している。 環境 交差点の形状、角切りを理解している。 用語理解 歩車道の違い、一方通行、位置の表し方を理解している。
感覚知覚	聴覚 校門のチャイムの音を40m前から把握できる。 触覚 足裏感覚、白杖を通しての感覚は問題がない。 平衡感覚 バランスがやや右に偏っている。 移動距離 5mを移動した距離感覚が一定ではない。 嗅覚 グランドにある梅花の香が20m手前で分かる。 視覚 光覚はあるが全盲である。 物体知覚 左側は駐車や壁を10m前で触覚として捕らえられる。右はx。
運動	歩幅 55cm(普通の場合) 安定 歩幅は安定している。白杖の振り幅も59~62cmで安定。 速度 3m~3.4m/2秒 身体イメージ 頭・胴体・腕・手・脚・足の位置関係を理解している。 周辺空間理解 自分を中心として周辺空間の位置関係を理解できる。 地理的空間 地理上の自分の位置と目的地の位置関係を理解できる。
社会性	表情 喜怒哀楽の表情を使い分けることができる。 マナー 公衆マナーを理解しており、違和感はない。 服装 季節・温度による服装理解。色の組み合わせと着こなしを学習中。 こだわり ランドマークを見つける度に深呼吸をする。 援助依頼表現 お願いするという表現が上手でないので学習中。 断り表現 相手の気分を害さない断り方を学習中。
心理的課題	意欲 横須賀の自宅まで保護者の力を借りず1人で通学したいという意欲あり。 理解 人間関係の理解や人の気持ちを理解するということを学習中。 反応 自分の興味があることに対する反応は早い。他は鈍い。 冷静 失敗したと思うと取り乱す。 回復 失敗をクヨクヨと引きずりやすい。回復は時間がかかる。 障害受容 小学校までは見えていた。白杖の使用など障害の受容ができていない。 感情の安定 いつもと違うという変化なければ、感情は安定している。
定位と移動	 <p>白杖の長さ 105cm                      グリップタイプ クルックハンドル                      石突きタイプ ナイロン製ノーマル                      足の重心 右足外側への重心</p> <p>ベアリング傾向                      右側にベアリングをして、右伝いの鋸刃状傾向がある。4.7m間隔。</p>
環境把握	ランドマーク 標識ポール、電信柱、マンホール、警告ブロック、音声信号 クルー 綱島街道や大口駅前通りの車音、コーヒー屋の焙煎の匂い

児童生徒氏名〔 記入例 〕 生年月日〔平成, 昭和 年 月 日〕  
 幼稚部 小, 中, 長, 小学部 1, 2, 3, 4, 5, 6, 中学部 1, 2, 3, 普通科 1, 2, 3, 専攻科 1, 2, 3,

調査項目	担当者所見 (眼科診断書を基に生活動作で確認)	
視力評価 (遠用眼鏡)	右 $0.04 \times \frac{+12.5S}{CAx}$	左 $0.1 \text{ 指標} \times \frac{+12.0S}{15cm \text{ } CAx}$
近見視評価	CCTV (NEGA) で読み書きとも墨字を現在使用。文字を見る時は片眼で見ている。S-Sでは確認できる障害物もM-Sでは、衝突する場合がある。行替えがスムーズではない。細サインペン使用。	
中間視評価	テーブル上の物の位置は正確に分かる。お茶もぎこちないが入れることが出来る。貨幣の弁別には、時間がかかるが正確に出来る。切符自動販売機の画面は読みとることが出来なかった。	
遠見視評価	歩車道の段差は、白杖操作でカバーしている。障害物を確認できる範囲は曇り時で、前方2.3メートル幅1.4メートルほどである。 曇りの時は、前方7mの歩行者用信号の青光と赤光を確認。晴天時×	
眼球運動 眼振	音を聞いてからの反射的な動きが鈍い。スキャンして前方を確認する動作が難しい。単眼鏡を合わせるのにも時間がかかる。 眼振は確認されていない。	
色 覚	色には、正確に反応する。音響信号が無い所では、頭上の歩行者用信号の光の色で横断タイミングを判断することが可能。	
明るさ対応	晴天で強い光の下でも、夕暮れで暗くなっても見え難いようである。明暗順応、いずれの場合も遅い。遮光眼鏡はかけていない。コンタクトは不可である。白地に書いた看板文字は光って見え難いという。	
眼科備考	角膜が乾き易く、点眼が欠かせない。角膜刺激に弱く、埃が入ると角膜が炎症を起こし、潰瘍化するので痛みにより、視覚の活用が制限される。指導の時に十分な配慮が必要。60	
視 野	<p>左眼 90 30 13 10 15 20 35 20 30 7 右眼 なし 60 晴眼者 眼疾名：○□▽□症</p>	
養護教諭所見 00/00 same T	遠距離0.04R、必要な倍率 = $0.5 / 0.04 = 12.5$ で、公式で考えると12.5倍ですが、×6の単眼鏡で5mで0.6が見えていますので×6の単眼鏡を貸します。本人が「×6の方がくっきり見えてよい」	

資料3

# 養護・訓練

（歩行訓練評価）

歩行訓練担当者会

児童生徒氏名〔 記入例 〕  
指導教諭氏名〔

〕 生年月日〔平成, 昭和 年 月 日〕障害手帳 級  
〕 指導員養成課程 文部教育 期, 駐留歩行・リハ養成 期

幼稚部 小, 中, 長, 小学部 1, 2, 3, 4, 5, 6, 中学部 1, 2, 3, 普通科 1, 2, 3, 専攻科 1, 2, 3, 外部支援  
訓練開始〔平成, 昭和 年 月 日〕〔学期訓練時間数 時間, 訓練時間数累計 時間〕  
訓練終了〔平成, 昭和 年 月 日〕〔修了認定(安全・能率・応用面), 訓練継続, 訓練中止〕  
訓練タイプ〔 Aタイプ Bタイプ 〕〔 弱視タイプ ミックスタイプ 全盲タイプ 〕  
基礎能力 . 知識 左右と方角 環境 用語理解,  
. 感覚知覚 聴覚 触覚 平衡感覚 移動距離 嗅覚 視覚 物体知覚,  
. 運動 歩幅 安定 速度 身体座標軸 空間座標軸 地理的座標軸,  
. 社会性 表情 マナー 服装 こだわり 援助依頼表現 断り表現,  
. 心理的課題 意欲 理解 反応 冷静 回復 障害受容 感情の安定

訓練目標〔盲学校内 自宅周囲 盲学校周囲道路 誘導ブロックで周辺道路迄 自力歩行で通学 〕  
訓練段階〔屋内歩行技術 白杖歩行基礎技術 住宅街歩行技術 準繁華街歩行技術 繁華街歩行技術〕

歩行訓練評価段階 (Aがついた項目は、次回の評価の時から二重線を引いて消してください。)

項目修了認定 = A, 認定には不十分 = B, 訓練内容を理解した程度 = C, 訓練内容の理解不十分 = D

校舎内歩行訓練項目		評価	校舎外(住宅街)歩行訓練項目		評価
1	屋内手引き歩行		1	屋外手引き歩行(ヘルパー利用)	
2	教室内の机の位置把握 fam.		2	白杖によるスライド法	
3	室内歩行の上・下部防御		3	白杖によるタッチテクニック	
4	教室入口発見と扉開閉		4	白杖による伝い歩き(境界線技)	
5	手すり伝い歩き		5	タッチ・アンド・ドラッグ(溝)	
6	校舎内廊下を渡る		6	タッチ・アンド・スライド(段)	
7	廊下誘導ライン伝い歩き		7	方向を維持して直線歩行	
8	同一階内のトイレ位置把握 fam.		8	自動車乗降(乗用車・ワゴン車)	
9	トイレ内の便器位置把握 fam.		9	路上の障害物回避	
10	階段の発見(エコーの違い)		10	走行中の自転車回避	
11	手摺を使った階段昇降		11	走行中の自動車音源定位	
12	階の定位		12	走行中の自動車回避行動	
13	校舎内の教室位置の把握		13	自動車回避からの回復行動	
14	校舎内のトイレ位置の把握		14	騒音回避(選択聴音・伝い歩き)	
15	同一階内の目的教室への移動		15	手がかかり(ランドマーク)の利用	
16	異なる階の目的教室への移動		16	歩車道の区別のない交差点発見	

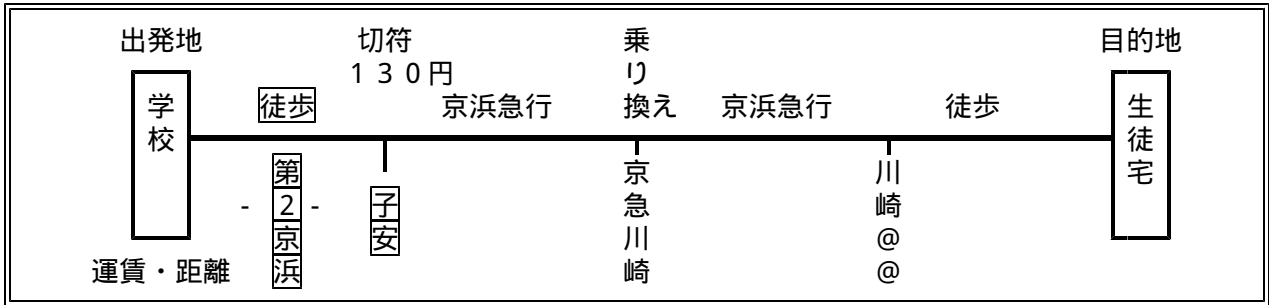
1998年度版

校舎外(準繁華街)歩行訓練項目		評価	2 4	コース定位(コース理解・立案)	
1	- 1 6 交差点横断(方向維持)		2 5	コース定位(コース変更・方角)	
2	同交差点横断(出発判断・位置)		2 6	コース定位応用(逆コース理解)	
3	同交差点横断(車音利用・方向)			,(繁華街・交通機関)歩行訓練項目 評価	
4	同交差点横断(ベアリング定位)		1	混雑地域の歩行(白杖操作技術)	
5	歩道歩行と歩道のある交差点発見		2	混雑地域の歩行(コースの保持)	
6	- 5 交差点横断(方向維持)		3	混雑地域の歩行(歩行音と方向)	
7	同交差点横断(出発判断・位置)		4	混雑地域の歩行(階段発見上昇)	
8	同交差点横断(車音利用・方向)		5	混雑地域の歩行(階段発見下降)	
9	同交差点横断(ベアリング定位)		6	エスカレーターの乗り口(発見)	
1 0	S O C (受動的曲がり込み認知)		7	エスカレーターの利用(上昇)	
1 1	S O C (直角の方向取り方)		8	エスカレーターの利用(下降)	
1 2	S O C (元のルートへの復帰)		9	エレベーターの利用 fam.	
1 3	音声信号利用(車音方向で確認)		1 0	バス乗降(ターミナル内歩行)	
1 4	信号利用(車音の進行方向弁別)		1 1	バス乗降(入り口発見・乗降車)	
1 5	信号利用(発車音での出発判断)		1 2	電車乗降(券売機・自動改札)	
1 6	信号利用(車音方向で安全確認)		1 3	電車乗降(駅ホーム上の歩行)	
1 7	選択聴音による環境把握(定位)		1 4	電車乗降(床の確認操作と乗車)	
1 8	目的地発見(ランドマーク理解)		1 5	電車乗降(ホーム確認と降車)	
1 9	白杖による階段上昇・下降		1 6	歩行地域fam. コース理解	
2 0	既知の段差発見(- 6 技術)		1 7	交通機関を利用した未知地域歩行	
2 1	環境の理解(交差点・隅切り等)		1 8	援助依頼(依頼タイミング)	
2 2	交通規則の理解(一方通行など)		1 9	援助依頼(ハインズブレイク)	
2 3	踏切横断(方向維持・スライド)		2 0	援助依頼(公衆電話/PHSの利用)	

(養成課程修了者) 岩屋(81),野口(83),岸(86),池田(91),松永(92),太幡(95),酒井(96)  
(評価所見)最終課題で、,(繁華街・交通機関)の18、19、20をチェックした。電車乗り換えの時に違う方向への誘導申し込みを丁寧なことばで断ることができた。また、携帯電話を使って自分のいる位置を合流する人へ正確に伝えることができた。心理的にも安定している。 1998年度版

平成	年 1 1 月 1 1 日 (水曜日)	生徒氏名	C 1 (弱視)
指導項目	準繁華街歩行と信号横断	所属学部	本科普通科 1 年
総時間数	1 0 時間目	指導者名	
前回の指導 (申し送り)	<p>○大口商店街を通過して、第 2 京浜国道までの歩行指導をおこなった。          学校から横盲 L の東側を誘導ブロックを使って南方向に移動し横盲 L と浜銀 L の北東の角に達した。左折して浜銀 L の北側歩道を東に移動し大口 L と浜銀 L の北西の角から浜銀 L を音声信号で南西の角に横断した。          南西の角から大口 L 西側を南進し、第二京浜と大口 L の北西の角に達した。          第二京浜を音声信号で北西の角から南西の角へ横断した。大口 L 西側を相応寺まで南進し、大口 L を地下道入口に向かって横断。地下道前から学校。</p>		

場 所	指導場面	行動・評価
学校看板前	昇降口でルートファムを行う。 横盲 L を走行する車音に気を配り、横盲 L 東側を南に移動を始める。 横盲 L は歩車道のない一方通行。	誘導ブロックの上を白杖を持ち上げて、下を見ながら歩き始めたので下方向は白杖にまかせて、前方方向に注意を払うように指導。
日石大口ア パート付近	横盲 L を北方向に走行する車音を聞いて素早く回避行動をとる。	カーブした下り坂で、前方が見え難い所での素早い回避行動をほめる。
横盲 L × 浜銀 L	横盲 L と浜銀 L の北東の角を東進し、誘導ブロックで音声信号のある 大口 L と浜銀 L の北西の角から浜銀 L を音声信号で南西の角に横断。	音声信号を使い正確に横断できた。 ビクトリアの路上看板をランドマークとして使った。 横断歩道西側歩道の 3 カ所路地口を横断するがベアリングせず直進歩行が出来ていた。
大口 L × 浜銀 L	大口 L と浜銀 L の南西の角から浜銀 L 西側歩道を南進。	
大口 L × 第二京浜	第二京浜国道と大口 L の北西の角直進横断歩道を渡り、大口 L と第二京浜の南西の角に。	音声信号を使って渡った。信号が変わるのが速いので着いたと同時に後ろで車が動き始めた。
子安 L × 第二京浜	大口 L 西側を相応寺まで南進、地下道入口前の横断歩道を車音を聞いて渡る。	南西の角から大口 L 西側歩道を続けて直進。路地の横断も直進歩行。 相応寺前のピンクの看板から横断歩道で大口 L を渡り通路へ。
地下通路口	地下通路口を発見。階段下降。 地下通路の西側を通り、階段を上げる子安駅通路北側のフェンス際を歩く。	階段下りで白杖操作を復習させる。 スムーズに改札口発見でほめる。
子安駅	券売機から誘導ブロックを使い、改札を通過して誘導ブロックを見つけ、階段を下り、誘導ブロックに沿って川崎方面ホーム 3 番 4 番線へ移動する。	改札口からホームまでの地下通路が苦手な階段昇降なので更に練習する。 4 番線に止まっている急行通過待ちの普通電車を見つけ、行き先を首から上げた単眼鏡で確認する。電車乗降を練習する。
備考	復路の記録は次頁に記録。(省略)	



歩行訓練地域の道路地図（歩行課題場所記入）

